

搾乳器の使用感について —手動搾乳器と電動搾乳器の比較調査—

ピジョン株式会社 中央研究所

平田 尚子、齊藤 哲

【目的】

搾乳は直接授乳が困難な時、母乳を保存する時、もしくは乳房が張り、排出目的で行う場合等で行われる行為である。搾乳手段として、手による搾乳と搾乳器を使用する場合がある。搾乳器を使用した場合、“痛い”“違和感がある”“母乳が出てこない”といった不具合感が報告されている。そこで今回は搾乳器の使用感調査を手動タイプと電動タイプの搾乳器の比較を通じて実施した。

【対象と方法】

対象：1～3ヶ月の乳児を持つ母親12名、全ての母親が母乳育児を実践しており、搾乳器未使用者、もしくは過去に使用経験があるが調査時には未所持・未使用者を対象とした。方法：搾乳器は P 社の「ベビーリズムさく乳器」の手動・電動タイプを使用した。以下に示す A～C の 3 条件において、各家庭で1週間使用し(A—授乳直前、B—授乳直後、C—授乳と授乳の間)、記録用紙に毎回の使用感等を記入した。倫理的配慮として、母親には調査内容を説明後、同意を得た上で参加してもらい、搾乳器の使用時間、搾乳量は母体、乳児ともに負担のない範囲で行った。

【結果】

搾乳記録より、3 条件を通じて、約 5 分間の搾乳を実践し、20～25ml 搾乳がなされており、A 条件(授乳直前)の方が B 条件(授乳直後)よりも多くの母乳が搾乳されていた(A:手動-約 35ml/5.1 分;電動-約 27ml/4.4 分 // B:手動-約 14ml/4.4 分;電動-11ml/5.1 分)。全体を通して、「母乳のとれやすさ」「痛み」等から搾乳器の使いやすさは電動よりも手動のほうが有意に高評価であった。A 条件と B 条件における痛みの発生率は異なる様子を示した。痛みの部位は乳首の痛みが 2/3 を占め、乳輪および乳輪外側の痛みが 1/3 あった。

【考察】

痛みの原因として、1)吸引圧による強い引っ張り、2)乳房、乳輪への不自然な圧迫、の 2 点が考えられた。1)吸引に関して、搾乳器の性質上「吸引」を消失させることは不可能であるが、圧の強さやリズムは今後詳しく検討していく必要がある。2)圧迫に関して、授乳直前の乳房緊満・敏感な状態では、密着の不十分さが痛みを発生させる様子が伺われた。同時に今回、手動タイプと電動タイプでは搾乳口の構造が異なっていることも痛みの発生の仕方に影響を及ぼしたと推測できる。今後、詳しく観察することにより痛みや違和感等、搾乳器使用の不具合について解明していく予定である。